

■平瀬作五郎 植物学者。イチョウの精子発見で世界に衝撃、無学歴に冷たい学界で、池野成一郎の支えで、恩賜賞も。ひらせさくごろう 越前国足羽郡日之出町で、藩主の近習や郡奉行をつとめる福井藩士平瀬儀作の長男に生まれる。 8人兄弟ということもあって、家は貧しく、

桜田門外変・1860＝ 4歳：

8月18日政変 1863＝ 7歳：この頃、福井藩藩校外塾に入学。

薩摩藩士密航1865＝ 9歳： 薩長同盟・1866＝10歳：この頃、藩校小学校に入学。

明治維新・1868＝12歳： 戊辰戦争終・1869＝13歳：福井藩中学校に入学。 在学中に、_のちに高橋由一の門人となる加賀野井成是に油絵を習い、 この年、_お雇教師となったグリフィスからも写生の教育を受けて上達したらしく、 学問のすすめ1872＝16歳：卒業、同校の中進業生図画術教授助手となるが、さらなる上達を求めて、 明治6年政変 1873＝17歳：上京、_高橋由一の門人山田成章に写実派油絵を学んで、 佐賀の乱・1874＝18歳： 初の民間工場1875＝19歳：帰郷し、岐阜県中学校図画教授方を拝命。

西南戦争・1877＝21歳：岐阜県第一中学校(岐阜県中学校の改称)兼岐阜県師範学校雇となり、神官小川政鴨の長女鯉と結婚。 大久保暗殺・1878＝22歳：*最初の図画教科書「**画学初步**」を書き、

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝24歳：岐阜県華陽学校(中学と師範の合併校)雇。 明治14年政変1881＝25歳：依願退職。岐阜県農学校(農事講習場の改称)も退職するが、 新体詩抄・1882＝26歳：岐阜県華陽学校三等教諭兼岐阜県農学校三等教諭として復職。翌年にかけて、_図画教科書「**用器画誌図式**」・教師用解説書「**用器画法**」3巻を出版、以後、版を重ねる。 岩倉具視没・1883＝27歳：この年、農学校も華陽学校に合併し、同校農学部となる 内閣発足・1885＝29歳：「図画指要」を出版。 帝国大学始・1886＝30歳：この年、維新後は学校教育に余生を捧げてきた父が、老齢のため福井を引揚げて同居。華陽学校が廃止され、 農学部を除いて独立した岐阜県中学校兼同師範学校助教諭試補となるが、 国民之友始・1887＝31歳：両校を退職。「小学校用器画法」(全二巻)出版するなど、東京との関わりも強くなってか、一家で移住し、 初の対等条約1888＝32歳：_植物絵の描き手が無く悩んでいた矢田部良吉率いる帝国大学理科大学植物学教室に画工として雇われ、 帝国憲法発布1889＝33歳：「**新撰用器画法**」(全三巻)・「**初学画本**」を出版。(明治美術会)結成発起人となり、第一回展覧会の事務委員に選出される。 帝国議会始・1890＝34歳：_技手に任命され、植物採集にも同行、 大津事件・1891＝35歳：(明治美術会)評議員となる。この年、矢田部良吉が失脚。 大本教・1892＝36歳：この間、_能力と勤勉さが評価されるようになり、 郡司千島探検1893＝37歳：*イチョウの研究を開始、牧野富太郎と同時に、助手に任命される。以後、美術から遠ざかって専念し、 日清戦争始・1894＝38歳：_植物学教室に出入りしていた農科大学助教授池野成一郎と親交して励まされ、最初の論文「**ぎんなんノ受胎期ニ就テ**」を発表。「中等教育用器画法」(全三巻)出版。東京植物学会幹事の一人に当選。英語論文「**公孫樹ノ受胎初期ニ於ケル花粉細胞ノアットラクションスフィア**」を発表。 日清戦争終・1895＝39歳：_東京植物学会幹事に再当選。仏語論文「イチョウの花粉管の行為」「イチョウの受精と胚发育の研究」。 白馬会・1896＝40歳：*イチョウの精子を発見し、第一回講演「**いてふノ精虫**」で、プレバラート供覧。論文「**いてふノ精虫ニ就テ**」。直後に池野がソテツの精子を発見している。 八幡製鉄始・1897＝41歳：_東京植物学会幹事に最高点当選。独誌に論文「イチョウの花粉の受粉までの状況」、米誌に論文「**ラシ植物の精子について**」(池野と共著)を発表するが、在野でも優れた人材を認めてきた浜尾新学長の退任とともに、牧野とともに、帝国大学退職となり、滋賀県尋常中学校教諭心得に転じ、研究を断つ。 *池野の尽力で、仏語論文「イチョウの受精と胚发育の研究(第二報)」が出され、世界的評価が確立。 子規句歌革新1898＝42歳： Bushidou・1899＝44歳：父が死去。 田中正造直訴1901＝45歳：滋賀県第一中学校(尋常中学校改称)講師を嘱託、 教科書疑獄・1902＝46歳：この年、長女と四男が死去。 日比谷公園・1903＝46歳：_以降、欧米の植物学教科書には平瀬作五郎の名が記載されるにも関わらず、日本の学界では無視され、 日露戦争始・1904＝48歳：滋賀県立第一中学校を退職。朝鮮群山の外国人居留地へ赴き、帰国。この年、三女が死去。 日露戦争終・1905＝49歳：京都の私立花園学林嘱託講師となる。相次ぐ子どもの死の不幸から逃れるためか、 満鉄発足・1906＝50歳：_イチョウの研究を再開し、同時にクロマツの受精と胚の初期発生の研究も始める。 韓国反日暴動1907＝51歳：「中等新用器画法」(全三巻)出版。_南方熊楠の呼びかけで松葉蘭の共同研究も始めるが、 アラビヤ創刊・1908＝52歳：相次いで子どもに先立たれた妻が精神に異常を来たす事態になる。 韓国併合・1910＝54歳：島津製作所の新年会に招かれ、 大逆事件判決1911＝55歳：_島津製作所が発行する月刊技術誌「サイエンス」に、「クロマツの受精実験法」を発表、標本部顧問を嘱託される。花園学院(花園学林の改称)教務主任心得となる。 明治天皇没・1912＝56歳：_*{サイエンス}誌上に「公孫樹の受精」発表。この年刊行された中等教科書でも相変わず無視されたままながら、おそらく池野が恩賜賞を受けるに当って、平瀬が受けなければ辞退するということがあって、イチョウの精子を発見の功績で第二回恩賜賞受賞。南方熊楠を訪問。 大正政変・1913＝57歳：大阪府立高等医学校予科の講師を嘱託され、花園学院と兼務。この年、さらに、三男が病死。 21ヶ条要求・1915＝59歳：この年、ついに、長男で病死。 本格政党内閣1918＝62歳：_花園学院紛擾事件で、学校側の学生不当処分に抗議して、辞職。論文「**公孫樹ノ受精及ビ胚发育研究補修**」「**くろまつノ受精ニ就テ**」を発表するが、

べル仁条約・1919＝63歳： 大暴落・1920＝64歳：_オーストラリア研究者に先越され、共同研究打ち切りの相談のため、南方熊楠を再訪問。以後、消沈し、 原敬首相暗殺1921＝65歳：花園中学に、教頭心得・学徒監・教諭として復職したが、 護憲三派圧勝1924＝68歳：病気(肝硬変)のため、退職し、 治安維持法・1925＝69歳：京都市右京区御室の自宅で、_没した。